

建築学科〔2024年度入学生対象〕

ディプロマ・ポリシー

- (1) 実践力のある専門の技術者となるべく、在学中だけでなく生涯にわたって主体的に学修活動を積み重ねる関心と意欲を持続できる。〔主体的に生涯学習を継続する意欲と関心〕
 - (2) 人文社会科学や自然科学・情報技術など、技術者に求められる幅広い教養とスキルを身につけそれらを活用できる。〔技術者に求められる文・理・情報系の素養〕
 - (3) 専門分野の知識・技術を体系的に理解し、社会や時代の要請に応じてそれらを実践的に適用できる。〔専門分野の知識・技術(詳細は学科DP)〕
 - (4) 技術者および社会人としてふさわしいコミュニケーション能力を備え、他者の意見・意向を正確に把握するとともに、自らの意見・意向を的確に表現し、相互理解のもとで議論することができる。〔相互に理解し議論するコミュニケーション力〕
 - (5) 社会的な課題の解決に向けて、他者と積極的に協働して取り組むことができる。〔他者との協働による課題解決力〕
 - (6) 地球的な視野に立ち、持続的な社会の維持・発展に向けた技術者としての使命感や倫理観を備え、社会に能動的に貢献する行動ができる。〔社会に対し能動的に貢献する行動力〕
- ◆注：「(3)」を明細化したものが、各学科のDPとなる
- (A) 人文社会科学や自然科学などの幅広い教養と英会話を含めたコミュニケーション能力を身につけ、それを建築のプロフェッショナルとして活かすことができる。〔幅広い教養に基づいたコミュニケーション能力〕
 - (B) 建築学の各分野で修得した幅広い知識・技術をもとに、総合的な見地から、多様な建築を設計・施工・管理・維持する技術的能力を修得し、それを実務で活かすことができる。〔専門基礎知識・技術の実践・応用力〕
 - (C) 建築学の各分野で修得した専門的な知識・技術をもとに、自発的に建築の学習を継続し、建築のプロフェッショナルとして自らを高めることができる。〔自己啓発に努める生涯学習能力〕
 - (D) 自身のアイデアを文章や図面にまとめ、表現する能力を身につけ、他者に正確に伝えることができる。〔確かなデザイン力に基づいたプレゼンテーション能力〕
 - (E) 社会が抱える諸課題の中から建築に関わる事項を抽出し、他者と協力して社会の持続可能な発展に寄与する合理的な解決策を見出すことができる。〔協働的かつ主体的な課題発見・解決力〕
 - (F) 建築のプロフェッショナルとして使命感や倫理観を身につけ、社会的責任について考え、説明することができる。〔技術者としての実践的倫理観〕

◀DPを達成するために特に重要度の高い科目には◎、重要度の高い科目には○、DPの達成を効果的に補助する科目には△▶

分野	分野目標	授業科目名	単位数	DP 1)	DP 2)	DP 3)	DP 4)	DP 5)	DP 6)	DP A)	DP B)	DP C)	DP D)	DP E)	DP F)	
キャリア 形成の基礎	グローバル化の時代に対応できる社会人の基礎的素養・能力として、広い視野の人文的教養にもとづく思考・判断力と、言語の基礎的知識を活用した円滑なコミュニケーション能力が発揮できるとともに、心身の健康を維持増進する方策を備えている。	世界と人間	2	○	◎		△	△	△							
		文章表現基礎	2	○	○		◎									
		哲学	2	○	◎		△	△	△							
		倫理学	2	○	◎		△	△	△							
		美術史	2	○	◎		△	△	△							
		文学	2	○	◎		△	△	△							
		日本語の歴史	2	○	◎		△	△	△							
		法学(日本国憲法)	2	○	◎		△	△	△							
		経済学	2	○	◎		△	△	△							
		歴史学	2	○	◎		△	△	△							
		心理学	2	○	◎		△	△	△							
		日本の伝統と文化	2	○	◎		△	△	△							
		国際関係論	2	○	◎		△	△	△							
		日本の文化と社会Ⅰ	2	○	◎		△	△	△							
		日本の文化と社会Ⅱ	2	○	◎		△	△	△							
		ベシク・イングリッシュ a	1	△	○		◎			○						
		ベシク・イングリッシュ b	1	△	○		◎			○						
		オーラル・コミュニケーションⅠ a	1	△	○		◎			○						
		オーラル・コミュニケーションⅠ b	1	△	○		◎			○						
		オーラル・コミュニケーションⅡ a	1	△	○		◎			○						
		オーラル・コミュニケーションⅡ b	1	△	○		◎			○						
		工学コミュニケーション英語基礎 a	1	△	○		◎			○						
		工学コミュニケーション英語基礎 b	1	△	○		◎			○						
		キャリア・イングリッシュⅠ a	1	△	○		◎			○						
		キャリア・イングリッシュⅠ b	1	△	○		◎			○						
		キャリア・イングリッシュⅡ a	1	△	○		◎			○						
		キャリア・イングリッシュⅡ b	1	△	○		◎			○						
		英語プレゼンテーション a	1	△	○		◎			○						
		英語プレゼンテーション b	1	△	○		◎			○						
		中国語コミュニケーション	1	△	○		◎			○						
		中国語と現代中国事情	1	△	○		◎			○						
		海外語学研修	2	△	○		◎			○						
		日本語Ⅰ	2	△	○		◎			○						
		日本語Ⅱ	2	△	○		◎			○						
健康体育Ⅰ	1	△	○		◎		○	△								
健康体育Ⅱ	1	△	○		◎		○	△								
生涯スポーツⅠ	1	△	○		◎		○	△								
生涯スポーツⅡ	1	△	○		◎		○	△								

分野	分野目標	授業科目名	単位数	DP 1)	DP 2)	DP 3)	DP 4)	DP 5)	DP 6)	DP A)	DP B)	DP C)	DP D)	DP E)	DP F)		
基幹	各分野で得た知識や技術を統合して、総合的見地から建物を設計・建設する方法を身につけており、自らのアイデアを表現できる。	構造力学 I	● 2	○	◎	◎					○	○					
		構造力学 II	● 2	○	◎	◎					○	○					
		設計演習 I	● 3	○	○	○						○	◎			△	
		設計演習 II	● 3	○	○	○						○	◎			△	
		設計演習 III	● 3	○	○	○						○	◎			△	
		建築演習 I	● 2	○	◎	○	◎					○	◎	◎		△	
		建築演習 II	● 2	○	◎	○	◎					○	◎	◎		△	
建築設計・計画	機能的で美しい建物や安全で快適な都市を計画・設計するために必要とする知識を身につけており、それに基づいて自らの考えを説明できる。	建築計画 I	■ 2	○		○					○	◎	○				
		建築計画 II	■ 2	○		○					○	◎	○				
		建築計画 III	■ 2	○		○					○	◎	○				
		建築計画 IV	■ 1	○		○					○	◎	○				
		建築計画 V	■ 1	○		○					○	◎	○				
		地区設計論	■ 1	○		○					○	◎	○		○		
		地区計画論	■ 1	○		○					○	◎	○		○		
		都市計画論 I	1	○		○					○	◎	○		○		
		都市計画論 II	1	○		○					○	◎	○		○		
		ランドスケープデザイン	1	○		○					○	◎	○				
		建築史 I	■ 2	○		○					○	◎	○				
		建築史 II	■ 2	○		○					○	◎	○				
		建築史 III	■ 1	○		○					○	◎	○				
		建築史 IV	■ 1	○		○					○	◎	○				
		意匠論	1	○		○					○	◎	○				
		建築法規 A	■ 1	○		○					○	◎	○				
		建築法規 B	■ 1	○		○					○	◎	○				
		CAD/CG演習 I	2	○		◎						○	◎				
		CAD/CG演習 II A	1	○		◎						○	◎				
		CAD/CG演習 II B	1	○		◎						○	◎				
CGプレゼンテーション演習 I	1	○		◎						○	◎						
CGプレゼンテーション演習 II	1	○		◎						○	◎						
建築環境工学・設備	建物内の温度、湿度、空気質制御に加え、明るさ、音環境を良好に維持・管理するために、それらを解析し、評価する能力を身につけており、建物の環境調整手法を活用した設計をすることができる。	建築環境工学 I 演習	■ 2	◎	◎	◎			○			○					
		建築環境工学 II 演習	■ 2	◎	◎	◎			○			○					
		建築環境工学 III 演習	■ 2	◎	◎	◎			○			○					
		建築設備 I	■ 2	◎	◎	◎			○			○					
		建築設備 II A	■ 1	◎	◎	◎			○			○					
		建築設備 II B	■ 1	◎	◎	◎			○			○					
		建築設備 II C	■ 1	◎	◎	◎			○			○					
構造力学・建築一般構造	建物の主要な構造形式の仕組みや力学的性質などに関する知識や解析能力を身につけており、構造物を安全に設計することができる。	構造力学アドバンス I	1	◎	◎	◎					○	○					
		構造力学アドバンス II	2	◎	◎	◎					○	○					
		構造力学 III	■ 2	○	◎	◎					○	○					
		構造力学 IV	■ 1	○	◎	◎					○	○					
		建築振動論 I	1	◎	◎	◎					○	○					
		建築振動論 II	1	◎	◎	◎					○	○					
		鋼構造 I	■ 2	○		◎					◎	○					
		鋼構造 II	■ 2	○		◎					◎	○					
		鉄筋コンクリート構造 I	■ 2	○		◎					◎	○					
		鉄筋コンクリート構造 II	■ 1	○		◎					◎	○					
		鉄筋コンクリート構造 III	■ 1	○		◎					◎	○					
		建築基礎構造 I	■ 1	○		◎					◎	○					
		建築基礎構造 II	■ 1	○		◎					◎	○					
構造計画 I	■ 1	○		◎					◎	○							
構造計画 II	1	○		◎					◎	○							
建築材料・生産	建築材料の力学的・物理的性質、仕上げ材の種類と性能、建物の施工方法および積算に関する知識を身につけており、それを建物の設計・施工に活かすことができる。	建築材料 I	■ 2	○		◎					○	○					
		建築材料 II	■ 2	○		◎					○	○					
		建築施工	■ 2	○		◎					○	○					
		建築経済 I	■ 1	○		◎					○	○					
		建築経済 II	■ 1	○		◎					○	○					
共通	低年次においては各分野における知識や技術を理解・修得するための素養を身につけ、高年次においては建築技術の社会との関わりや、建築に携わる者の責任や倫理について説明できる。	設計基礎演習 I	■ 2	○		○						○	◎				
		設計基礎演習 II	■ 2	○		○						○	◎				
		建築概論	2	◎	○	○						○	○				
		建築構法	■ 2	◎	○	○						○	○				
		木構造 I	■ 2	○		◎					◎	○					
		木構造 II	■ 2	○		◎					◎	○					
		絵画演習	2											◎			
		測量学 I・同演習	1			○						○	◎				
		測量学 II・同演習	1			○						○	◎				
		建築倫理	1			◎				◎		○			○	◎	
建築学アドバンス I	1	◎	○	○					○	◎							
建築学アドバンス II	1	◎	○	○					○	◎							
特別講義	1	○		○					○	○			○				
卒業研究	卒業研究	(4)								◎		○		○			

(注) ●：必修科目、■：選択必修科目、単位数の前に※を付した授業科目は卒業に必要な単位数に含めない科目)
 (※) 本学では、卒業研究に単位は設定しておらず、卒業要件として、その合格を課している。ただし、卒業研究が DP 達成に果たす役割は大きく、DS システム上の DP 達成度算出の対象とするため、カリキュラム・マトリクス上では卒業研究を4単位と仮定している。

建築学科 [2023年度入学生対象]

ディプロマ・ポリシー

- (1) 実践力のある専門的技術者となるべく、在学中だけでなく生涯にわたって主体的に学修活動を積み重ねる関心と意欲を持続できる。〔主体的に生涯学習を継続する意欲と関心〕
 - (2) 人文社会科学や自然科学・情報技術など、技術者に求められる幅広い教養とスキルを身につけそれらを活用できる。〔技術者に求められる文・理・情報系の素養〕
 - (3) 専門分野の知識・技術を体系的に理解し、社会や時代の要請に応じてそれらを実践的に適用できる。〔専門分野の知識・技術(詳細は学科DP)〕
 - (4) 技術者および社会人としてふさわしいコミュニケーション能力を備え、他者の意見・意向を正確に把握するとともに、自らの意見・意向を的確に表現し、相互理解のもとで議論することができる。〔相互に理解し議論するコミュニケーション能力〕
 - (5) 社会的な課題の解決に向けて、他者と積極的に協働して取り組むことができる。〔他者との協働による課題解決力〕
 - (6) 地球的な視野に立ち、持続的な社会の維持・発展に向けた技術者としての使命観や倫理観を備え、社会に能動的に貢献する行動ができる。〔社会に対し能動的に貢献する行動力〕
- ◆注：「(3)」を明細化したものが、各学科のDPとなる
- (A) 人文社会科学や自然科学などの幅広い教養と英会話を含めたコミュニケーション能力を身につけ、それを建築のプロフェッショナルとして活かすことができる。〔幅広い教養に基づいたコミュニケーション能力〕
 - (B) 建築学の各分野で修得した幅広い知識・技術をもとに、総合的な見地から、多様な建築を設計・施工・管理・維持する技術的能力を修得し、それを実務で活かすことができる。〔専門基礎知識・技術の実践・応用力〕
 - (C) 建築学の各分野で修得した専門的な知識・技術をもとに、自発的に建築の学習を継続し、建築のプロフェッショナルとして自らを高めることができる。〔自己啓発に努める生涯学習能力〕
 - (D) 自身のアイデアを文章や図面にまとめ、表現する能力を身につけ、他者に正確に伝えることができる。〔確かなデザイン力に基づいたプレゼンテーション能力〕
 - (E) 社会が抱える諸課題の中から建築に関わる事項を抽出し、他者と協力して社会の持続可能な発展に寄与する合理的な解決策を見いだすことができる。〔協働的かつ主体的な課題発見・解決力〕
 - (F) 建築のプロフェッショナルとして使命感や倫理観を身につけ、社会的責任について考え、説明することができる。〔技術者としての実践的倫理観〕

◀DPを達成するために特に重要度の高い科目には◎、重要度の高い科目には○、DPの達成を効果的に補助する科目には△▶

分野	分野目標	授業科目名	単位数	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5	DP 6	DP A	DP B	DP C	DP D	DP E	DP F	
キャリア 形成の基礎	グローバル化の時代に対応できる社会人の基礎的素養・能力として、広い視野の人文的教養にもとづく思考・判断力と、言語の基礎的知識を活用した円滑なコミュニケーション力が発揮できるとともに、心身の健康を維持増進する方策を備えている。	世界と人間	2	○	◎		△	△	△							
		文章表現基礎	2	○	◎		◎									
		哲学	2	○	◎		△	△	△							
		倫理学	2	○	◎		△	△	△							
		美術史	2	○	◎		△	△	△							
		文学	2	○	◎		△	△	△							
		日本語の歴史	2	○	◎		△	△	△							
		法学(日本国憲法)	2	○	◎		△	△	△							
		経済学	2	○	◎		△	△	△							
		歴史学	2	○	◎		△	△	△							
		心理学	2	○	◎		△	△	△							
		日本の伝統と文化	2	○	◎		△	△	△							
		国際関係論	2	○	◎		△	△	△							
		日本の文化と社会Ⅰ	2	○	◎		△	△	△							
		日本の文化と社会Ⅱ	2	○	◎		△	△	△							
		ベーシック・イングリッシュa	1	△	○		◎		○							
		ベーシック・イングリッシュb	1	△	○		◎		○							
		オーラル・コミュニケーションⅠa	1	△	○		◎		○							
		オーラル・コミュニケーションⅠb	1	△	○		◎		○							
		オーラル・コミュニケーションⅡa	1	△	○		◎		○							
		オーラル・コミュニケーションⅡb	1	△	○		◎		○							
		工学コミュニケーション英語基礎a	1	△	○		◎		○							
		工学コミュニケーション英語基礎b	1	△	○		◎		○							
		キャリア・イングリッシュⅠa	1	△	○		◎		○							
		キャリア・イングリッシュⅠb	1	△	○		◎		○							
		キャリア・イングリッシュⅡa	1	△	○		◎		○							
		キャリア・イングリッシュⅡb	1	△	○		◎		○							
		英語プレゼンテーションa	1	△	○		◎		○							
		英語プレゼンテーションb	1	△	○		◎		○							
		中国語コミュニケーション	1	△	○		◎		○							
		中国語と現代中国事情	1	△	○		◎		○							
		海外語学研修	2	△	○		◎		○							
		日本語Ⅰ	2	△	○		◎		○							
		日本語Ⅱ	2	△	○		◎		○							
健康体育Ⅰ	1	△	○		◎		○	△								
健康体育Ⅱ	1	△	○		◎		○	△								
生涯スポーツⅠ	1	△	○		◎		○	△								
生涯スポーツⅡ	1	△	○		◎		○	△								

分野	分野目標	授業科目名	単位数	DP 1)	DP 2)	DP 3)	DP 4)	DP 5)	DP 6)	DP A)	DP B)	DP C)	DP D)	DP E)	DP F)	
基幹	各分野で得た知識や技術を統合して、総合的に見地から建物を設計・建設する方法を身につけており、自らのアイデアを表現できる。	構造力学Ⅰ	● 2	○	◎	◎					○	○				
		構造力学Ⅱ	● 2	○	◎	◎					○	○				
		設計演習Ⅰ	● 3	○		○							○	◎		△
		設計演習Ⅱ	● 3	○		○							○	◎		△
		設計演習Ⅲ	● 3	○		○							○	◎		△
		建築演習Ⅰ	● 2	○	◎	○	◎						○	◎	◎	△
建築設計・計画	概能的で美しい建物や安全で快適な都市を計画・設計するために必要とする知識を身につけており、それに基づいて自らの考えを説明できる。	建築計画Ⅰ	■ 2	○		○					○	◎	○			
		建築計画Ⅱ	■ 2	○		○					○	◎	○			
		建築計画Ⅲ	■ 2	○		○					○	◎	○			
		建築計画Ⅳ	■ 1	○		○					○	◎	○			
		建築計画Ⅴ	■ 1	○		○					○	◎	○			
		地区設計論	■ 1	○		○					○	◎			○	
		地区計画論	■ 1	○		○					○	◎			○	
		都市計画論Ⅰ	1	○		○					○	◎			○	
		都市計画論Ⅱ	1	○		○					○	◎			○	
		ランドスケープデザイン	1	○		○					○	◎				
		建築史Ⅰ	■ 2	○		○					○	◎				
		建築史Ⅱ	■ 2	○		○					○	◎				
		建築史Ⅲ	■ 1	○		○					○	◎				
		建築史Ⅳ	■ 1	○		○					○	◎				
		意匠論	1	○		○					○	◎				
		建築法規A	■ 1	○		○					○	◎				
		建築法規B	■ 1	○		○					○	◎				
		CAD/CG演習Ⅰ	2	○		◎							○	◎		
		CAD/CG演習ⅡA	1	○		◎							○	◎		
		CAD/CG演習ⅡB	1	○		◎							○	◎		
CGプレゼンテーション演習Ⅰ	1	○		◎							○	◎				
CGプレゼンテーション演習Ⅱ	1	○		◎							○	◎				
建築環境工学・設備	建物内の温度、湿度、空気質制御に加え、明るさ、音環境を良好に維持・管理するために、それらを解析し、評価する能力を身につけており、建物の環境調整手法を活用した設計をすることができる。	建築環境工学Ⅰ演習	■ 2	◎	◎	◎			○			○				
		建築環境工学Ⅱ演習	■ 2	◎	◎	◎			○			○				
		建築環境工学Ⅲ演習	■ 2	◎	◎	◎			○			○				
		建築設備Ⅰ	■ 2	◎	◎	◎			○			○				
		建築設備ⅡA	■ 1	◎	◎	◎			○			○				
		建築設備ⅡB	■ 1	◎	◎	◎			○			○				
構造力学・建築一般構造	建物の主要な構造形式の仕組みや力学的性質などに関する知識や解析能力を身につけており、構造物を安全に設計することができる。	構造力学アドバンスⅠ	1	◎	○	◎						○				
		構造力学アドバンスⅡ	2	◎	○	◎						○				
		構造力学Ⅲ	■ 2	○	◎	◎						○	○			
		構造力学Ⅳ	■ 1	○	◎	◎						○	○			
		建築振動論Ⅰ	1	◎		◎						○	○			
		建築振動論Ⅱ	1	◎		◎						○	○			
		鋼構造Ⅰ	■ 2	○		◎						○	○			
		鋼構造Ⅱ	■ 2	○		◎						○	○			
		鉄筋コンクリート構造Ⅰ	■ 2	○		◎						○	○			
		鉄筋コンクリート構造Ⅱ	■ 1	○		◎						○	○			
		鉄筋コンクリート構造Ⅲ	■ 1	○		◎						○	○			
		建築基礎構造Ⅰ	■ 1	○		◎						○	○			
		建築基礎構造Ⅱ	■ 1	○		◎						○	○			
		構造計画Ⅰ	■ 1	○		◎						○	○			
構造計画Ⅱ	1	○		◎						○	○					
建築材料・生産	建築材料の力学的・物理的性質、仕上げ材の種類と性能、建物の施工方法および積算に関する知識を身につけており、それを建物の設計・施工に活かすことができる。	建築材料Ⅰ	■ 2	○		◎					○	○				
		建築材料Ⅱ	■ 2	○		◎					○	○				
		建築施工	■ 2	○		◎						○	○			
		建築経済Ⅰ	■ 1	○		◎						○	○			
		建築経済Ⅱ	■ 1	○		◎						○	○			
共通	低年次においては各分野における知識や技術を理解・修得するための素養を身につけ、高年次においては建築技術の社会との関わりや、建築に携わる者の責任や倫理について説明できる。	設計基礎演習Ⅰ	■ 2	○		○						○	◎			
		設計基礎演習Ⅱ	■ 2	○		○						○	◎			
		建築概論	2	◎	○	◎						○	○			
		建築構法	■ 2	◎	○	◎						○	○			
		木構造	■ 2	◎		◎						○	○			
		絵画演習	2											◎		
		測量Ⅰ・同演習	1									○	◎			
		測量Ⅱ・同演習	1									○	◎			
		建築倫理	1			◎				◎			○		○	◎
		建築学アドバンスⅠ	1	◎		○						○	◎			
建築学アドバンスⅡ	1	◎		○						○	◎					
特別講義	1	○								○	○		○			
卒業研究	卒業研究	(4)									◎	○		○		

(注) ●：必修科目、■：選択必修科目、単位数の前に※を付した授業科目は卒業に必要な単位数に含めない科目

(※) 本学では、卒業研究に単位は設定しておらず、卒業要件として、その合格を課している。ただし、卒業研究がDP達成に果たす役割は大きく、DSシステム上のDP達成度算出の対象とするため、カリキュラム・マトリクス上では卒業研究を4単位と仮定している。

建築学科 [2022年度入学生対象]

ディプロマ・ポリシー

- (1) 実践力のある専門的技術者となるべく、在学中だけでなく生涯にわたって主体的に学修活動を積み重ねる関心と意欲を持続できる。〔主体的に生涯学習を継続する意欲と関心〕
 - (2) 人文社会科学や自然科学・情報技術など、技術者に求められる幅広い教養とスキルを身につけそれらを活用できる。〔技術者に求められる文・理・情報系の素養〕
 - (3) 専門分野の知識・技術を体系的に理解し、社会や時代の要請に応じてそれらを実践的に適用できる。〔専門分野の知識・技術(詳細は学科DP)〕
 - (4) 技術者および社会人としてふさわしいコミュニケーション能力を備え、他者の意見・意向を正確に把握するとともに、自らの意見・意向を的確に表現し、相互理解のもとで議論することができる。〔相互に理解し議論するコミュニケーション能力〕
 - (5) 社会的な課題の解決に向けて、他者と積極的に協働して取り組むことができる。〔他者との協働による課題解決力〕
 - (6) 地球的な視野に立ち、持続的な社会の維持・発展に向けた技術者としての使命観や倫理観を備え、社会に能動的に貢献する行動ができる。〔社会に対し能動的に貢献する行動力〕
- ◆注：「(3)」を明細化したものが、各学科のDPとなる
- (A) 人文社会科学や自然科学などの幅広い教養と英会話を含めたコミュニケーション能力を身につけ、それを建築のプロフェッショナルとして活かすことができる。〔幅広い教養に基づいたコミュニケーション能力〕
 - (B) 建築学の各分野で修得した幅広い知識・技術をもとに、総合的な見地から、多様な建築を設計・施工・管理・維持する技術的能力を修得し、それを実務で活かすことができる。〔専門基礎知識・技術の実践・応用力〕
 - (C) 建築学の各分野で修得した専門的な知識・技術をもとに、自発的に建築の学習を継続し、建築のプロフェッショナルとして自らを高めることができる。〔自己啓発に努める生涯学習能力〕
 - (D) 自身のアイデアを文章や図面にまとめ、表現する能力を身につけ、他者に正確に伝えることができる。〔確かなデザイン力に基づいたプレゼンテーション能力〕
 - (E) 社会が抱える諸課題の中から建築に関わる事項を抽出し、他者と協力して社会の持続可能な発展に寄与する合理的な解決策を見いだすことができる。〔協働的かつ主体的な課題発見・解決力〕
 - (F) 建築のプロフェッショナルとして使命感や倫理観を身につけ、社会的責任について考え、説明することができる。〔技術者としての実践的倫理観〕

◀DPを達成するために特に重要度の高い科目には◎、重要度の高い科目には○、DPの達成を効果的に補助する科目には△▶

分野	分野目標	授業科目名	単位数	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5	DP 6	DP A	DP B	DP C	DP D	DP E	DP F	
キャリア 形成の基礎	グローバル化の時代に対応できる社会人の基礎的素養・能力として、広い視野の人文的教養にもとづく思考・判断力と、言語の基礎的知識を活用した円滑なコミュニケーション力が発揮できるとともに、心身の健康を維持増進する方策を備えている。	世界と人間	2	○	◎		△	△	△							
		文章表現基礎	2	○	○		◎									
		哲学	2	○	◎		△	△	△							
		倫理学	2	○	◎		△	△	△							
		美術史	2	○	◎		△	△	△							
		文学	2	○	◎		△	△	△							
		日本語の歴史	2	○	◎		△	△	△							
		法学(日本国憲法)	2	○	◎		△	△	△							
		経済学	2	○	◎		△	△	△							
		歴史学	2	○	◎		△	△	△							
		心理学	2	○	◎		△	△	△							
		日本の伝統と文化	2	○	◎		△	△	△							
		国際関係論	2	○	◎		△	△	△							
		日本の文化と社会Ⅰ	2	○	◎		△	△	△							
		日本の文化と社会Ⅱ	2	○	◎		△	△	△							
		ベーシック・イングリッシュ a	1	△	○		◎			○						
		ベーシック・イングリッシュ b	1	△	○		◎			○						
		オーラル・コミュニケーションⅠ a	1	△	○		◎			○						
		オーラル・コミュニケーションⅠ b	1	△	○		◎			○						
		オーラル・コミュニケーションⅡ a	1	△	○		◎			○						
		オーラル・コミュニケーションⅡ b	1	△	○		◎			○						
		工学コミュニケーション英語基礎 a	1	△	○		◎			○						
		工学コミュニケーション英語基礎 b	1	△	○		◎			○						
		キャリア・イングリッシュⅠ a	1	△	○		◎			○						
		キャリア・イングリッシュⅠ b	1	△	○		◎			○						
		キャリア・イングリッシュⅡ a	1	△	○		◎			○						
		キャリア・イングリッシュⅡ b	1	△	○		◎			○						
		英語プレゼンテーション a	1	△	○		◎			○						
		英語プレゼンテーション b	1	△	○		◎			○						
		中国語コミュニケーション	1	△	○		◎			○						
		中国語と現代中国事情	1	△	○		◎			○						
		海外語学研修	2	△	○		◎			○						
		日本語Ⅰ	2	△	○		◎			○						
		日本語Ⅱ	2	△	○		◎			○						
		健康体育Ⅰ	1	△	○		◎		○	△						
		健康体育Ⅱ	1	△	○		◎		○	△						
生涯スポーツⅠ	1	△	○		◎		○	△								
生涯スポーツⅡ	1	△	○		◎		○	△								

分野	分野目標	授業科目名	単位数	DP 1)	DP 2)	DP 3)	DP 4)	DP 5)	DP 6)	DP A)	DP B)	DP C)	DP D)	DP E)	DP F)	
基幹	各分野で得た知識や技術を統合して、総合的見地から建物を設計・建設する方法を身につけており、自らのアイデアを表現できる。	構造力学Ⅰ	● 2	○	◎	◎					○	○				
		構造力学Ⅱ	● 2	○	◎	◎					○	○				
		設計演習Ⅰ	● 3	○		○						○	◎			△
		設計演習Ⅱ	● 3	○		○						○	◎			△
		設計演習Ⅲ	● 3	○		○						○	◎			△
		建築演習Ⅰ	● 2	○	◎	◎	◎					○	◎	◎	◎	△
建築設計・計画	概念的で美しい建物や安全で快適な都市を計画・設計するために必要とする知識を身につけており、それに基づいて自らの考えを説明できる。	建築計画Ⅰ	■ 2	○		○					○	◎	○			
		建築計画Ⅱ	■ 2	○		○					○	◎	○			
		建築計画Ⅲ	■ 2	○		○					○	◎	○			
		建築計画Ⅳ	■ 1	○		○					○	◎	○			
		建築計画Ⅴ	■ 1	○		○					○	◎	○			
		地区設計論	■ 1	○		○					○	◎			○	
		地区計画論	■ 1	○		○					○	◎			○	
		都市計画論Ⅰ	1	○		○					○	◎			○	
		都市計画論Ⅱ	1	○		○					○	◎			○	
		ランドスケープデザイン	1	○		○					○	◎			○	
		建築史Ⅰ	■ 2	○		○					○	◎				
		建築史Ⅱ	■ 2	○		○					○	◎				
		建築史Ⅲ	■ 1	○		○					○	◎				
		建築史Ⅳ	■ 1	○		○					○	◎				
		意匠論	1	○		○					○	◎				
		建築法規A	■ 1	○		○					○	◎				
		建築法規B	■ 1	○		○					○	◎				
		CAD/CG演習Ⅰ	2	○		◎						○	◎			
		CAD/CG演習ⅡA	1	○		◎						○	◎			
		CAD/CG演習ⅡB	1	○		◎						○	◎			
		CGプレゼンテーション演習Ⅰ	1	○		◎						○	◎			
		CGプレゼンテーション演習Ⅱ	1	○		◎						○	◎			
		建築環境工学・設備	建物内の温度、湿度、空気質制御に加え、明るさ、音環境を良好に維持・管理するために、それらを解析し、評価する能力を身につけており、建物の環境調整手法を活用した設計をすることができる。	建築環境工学Ⅰ演習	■ 2	○	◎	◎			○		○			
建築環境工学Ⅱ演習	■ 2			○	◎	◎			○		○					
建築環境工学Ⅲ演習	■ 2			○	◎	◎			○		○					
建築設備Ⅰ	■ 2			○	◎	◎			○		○					
建築設備ⅡA	■ 1			○	◎	◎			○		○					
建築設備ⅡB	■ 1			○	◎	◎			○		○					
構造力学・建築一般構造	建物の主要な構造形式の仕組みや力学的性質などに関する知識や解析能力を身につけており、構造物を安全に設計することができる。	構造力学アドバンスⅠ	1	◎	○	◎					○					
		構造力学アドバンスⅡ	2	○	○	◎					○	○				
		構造力学Ⅲ	■ 2	○	◎	◎					○	○				
		構造力学Ⅳ	■ 1	○	◎	◎					○	○				
		建築振動論Ⅰ	1	○		◎					○	○				
		建築振動論Ⅱ	1	○		◎					○	○				
		鋼構造Ⅰ	■ 2	○		◎					○	○				
		鋼構造Ⅱ	■ 2	○		◎					○	○				
		鉄筋コンクリート構造Ⅰ	■ 2	○		◎					○	○				
		鉄筋コンクリート構造Ⅱ	■ 1	○		◎					○	○				
		鉄筋コンクリート構造Ⅲ	■ 1	○		◎					○	○				
		建築基礎構造Ⅰ	■ 1	○		◎					○	○				
		建築基礎構造Ⅱ	■ 1	○		◎					○	○				
		構造計画Ⅰ	■ 1	○		◎					○	○				
構造計画Ⅱ	1	○		◎					○	○						
建築材料・生産	建築材料の力学的・物理的性質、仕上げ材の種類と性能、建物の施工方法および積算に関する知識を身につけており、それを建物の設計・施工に活かすことができる。	建築材料Ⅰ	■ 2	○		◎					○	○				
		建築材料Ⅱ	■ 2	○		◎					○	○				
		建築施工	■ 2	○		◎					○	○				
		建築経済Ⅰ	■ 1	○		◎					○	○				
		建築経済Ⅱ	■ 1	○		◎					○	○				
		設計基礎演習Ⅰ	■ 2	○		○						○	◎			
共通	低年次においては各分野における知識や技術を理解・修得するための素養を身につけ、高年次においては建築技術の社会との関わりや、建築に携わる者の責任や倫理について説明できる。	設計基礎演習Ⅱ	■ 2	○		○						○	◎			
		建築概論	2	◎	○	○					○	○				
		建築構法	■ 2	◎	○	◎					○	○				
		木構造	■ 2	◎		◎					○	○		○		
		絵画演習	2											◎		
		測量Ⅰ・同演習	1				○				○	◎				
		測量Ⅱ・同演習	1				○				○	◎				
		建築倫理	1				◎		◎			○			○	◎
		建築学アドバンスⅠ	1	◎		○					○	◎				
		建築学アドバンスⅡ	1	◎		○					○	◎				
		特別講義	1	○		○					○	◎			○	
卒業研究	卒業研究	(4)			○					◎	○		○	○		

(注) ●：必修科目、■：選択必修科目、単位数の前に※を付した授業科目は卒業に必要な単位数に含めない科目

(※) 本学では、卒業研究に単位は設定しておらず、卒業要件として、その合格を課している。ただし、卒業研究が

DP達成に果たす役割は大きく、DSシステム上のDP達成度算出の対象とするため、カリキュラム・マトリクス上では卒業研究を4単位と仮定している。

建築学科〔2019～2021年度入学生対象〕

ディプロマ・ポリシー

- (1) 実践力のある専門的技術者となるべく、在学中だけでなく生涯にわたって主体的に学修活動を積み重ねる関心と意欲を持続できる。〔主体的に生涯学習を継続する意欲と関心〕
 - (2) 人文社会科学や自然科学・情報技術など、技術者に求められる幅広い教養とスキルを身につけそれらを活用できる。〔技術者に求められる文・理・情報系の素養〕
 - (3) 専門分野の知識・技術を体系的に理解し、社会や時代の要請に応じてそれらを実践的に適用できる。〔専門分野の知識・技術(詳細は学科DP)〕
 - (4) 技術者および社会人としてふさわしいコミュニケーション能力を備え、他者の意見・意向を正確に把握するとともに、自らの意見・意向を的確に表現し、相互理解のもとで議論することができる。〔相互に理解し議論するコミュニケーション力〕
 - (5) 社会的な課題の解決に向けて、他者と積極的に協働して取り組むことができる。〔他者との協働による課題解決力〕
 - (6) 地球的な視野に立ち、持続的な社会の維持・発展に向けた技術者としての使命観や倫理観を備え、社会に能動的に貢献する行動ができる。〔社会に対し能動的に貢献する行動力〕
- ◆注：「(3)」を明細化したものが、各学科のDPとなる
- (A) 人文社会科学や自然科学などの幅広い教養と英語を含めたコミュニケーション能力を身につけ、それを建築のプロフェッショナルとして活かすことができる。〔幅広い教養に基づいたコミュニケーション能力〕
 - (B) 建築学の各分野で修得した幅広い知識・技術をもとに、総合的な見地から、多様な建築を設計・施工・管理・維持する技術的能力を修得し、それを実務で活かすことができる。〔専門基礎知識・技術の実践・応用力〕
 - (C) 建築学の各分野で修得した専門的な知識・技術をもとに、自発的に建築の学習を継続し、建築のプロフェッショナルとして自らを高めることができる。〔自己啓発に努める生涯学習能力〕
 - (D) 自身のアイデアを文章や図面にまとめ、表現する能力を身につけ、他者に正確に伝えることができる。〔確かなデザイン力に基づいたプレゼンテーション能力〕
 - (E) 社会が抱える諸課題の中から建築に関わる事項を抽出し、他者と協力して社会の持続可能な発展に寄与する合理的な解決策をい出すことができる。〔協働的かつ主体的な課題発見・解決力〕
 - (F) 建築のプロフェッショナルとして使命感や倫理観を身につけ、社会的責任について考え、説明することができる。〔技術者としての実践的倫理観〕

◀DPを達成するために特に重要度の高い科目には◎、重要度の高い科目には○、DPの達成を効果的に補助する科目には△▶

分野	分野目標	授業科目名	単位数	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5	DP 6	DP A	DP B	DP C	DP D	DP E	DP F	
キャリア形成の基礎	グローバル化の時代に対応できる社会人の基礎的素養・能力として、広い視野の人文的教養にもとづく思考・判断力と、言語の基礎的知識を活用した円滑なコミュニケーション力が発揮できるとともに、心身の健康を維持増進する方策を備えている。	世界と人間	2	○	◎		△	△	△							
		文章表現基礎	2	○	◎		◎									
		哲学	2	○	◎		△	△	△							
		倫理学	2	○	◎		△	△	△							
		美術史	2	○	◎		△	△	△							
		文学	2	○	◎		△	△	△							
		日本語の歴史	2	○	◎		△	△	△							
		法学(日本国憲法)	2	○	◎		△	△	△							
		経済学	2	○	◎		△	△	△							
		歴史学	2	○	◎		△	△	△							
		心理学	2	○	◎		△	△	△							
		日本の伝統と文化	2	○	◎		△	△	△							
		国際関係論	2	○	◎		△	△	△							
		日本の文化と社会Ⅰ	2	○	◎		△	△	△							
		日本の文化と社会Ⅱ	2	○	◎		△	△	△							
		ベーシック・イングリッシュa	1	△	○		◎		○							
		ベーシック・イングリッシュb	1	△	○		◎		○							
		オーラル・コミュニケーションⅠa	1	△	○		◎		○							
		オーラル・コミュニケーションⅠb	1	△	○		◎		○							
		オーラル・コミュニケーションⅡa	1	△	○		◎		○							
		オーラル・コミュニケーションⅡb	1	△	○		◎		○							
		工学コミュニケーション英語基礎a	1	△	○		◎		○							
		工学コミュニケーション英語基礎b	1	△	○		◎		○							
		キャリア・イングリッシュⅠa	1	△	○		◎		○							
		キャリア・イングリッシュⅠb	1	△	○		◎		○							
		キャリア・イングリッシュⅡa	1	△	○		◎		○							
		キャリア・イングリッシュⅡb	1	△	○		◎		○							
		英語プレゼンテーションa	1	△	○		◎		○							
		英語プレゼンテーションb	1	△	○		◎		○							
		中国語コミュニケーション	1	△	○		◎		○							
		中国語と現代中国事情	1	△	○		◎		○							
		海外語学研修	2	△	○		◎		○							
日本語Ⅰ	2	△	○		◎		○									
日本語Ⅱ	2	△	○		◎		○									
健康体育Ⅰ	1	△	○		◎		○	△								
健康体育Ⅱ	1	△	○		◎		○	△								
生涯スポーツⅠ	1	△	○		◎		○	△								
生涯スポーツⅡ	1	△	○		◎		○	△								

分野	分野目標	授業科目名	単位数	DP 1)	DP 2)	DP 3)	DP 4)	DP 5)	DP 6)	DP A)	DP B)	DP C)	DP D)	DP E)	DP F)	
基幹	各分野で得た知識や技術を統合して、総合的見地から建物を設計・建設する方法を身につけており、自らのアイデアを表現できる。	静定構造力学演習	● 2	○	◎	◎					○	○				
		材料力学演習	● 2	○	◎	◎					○	○				
		設計演習 I	● 3	○	○	○						○	◎			△
		設計演習 II	● 3	○	○	○						○	◎			△
		設計演習 III	● 3	○	○	○						○	◎			△
		建築演習 I	● 2	○	◎	○	◎					○	◎	◎		△
		建築演習 II	● 2	○	◎	○	◎					○	◎	◎		△
		建築計画 I	■ 2	○	○	○						○	◎	○		
		建築計画 II	■ 2	○	○	○						○	◎	○		
		建築計画 III	■ 2	○	○	○						○	◎	○		
建築設計・計画	機能的で美しい建物や安全で快適な都市を計画・設計するために必要とする知識を身につけており、それに基づいて自らの考えを説明できる。	建築計画 IV	■ 1	○	○	○					○	◎	○			
		建築計画 V	■ 1	○	○	○					○	◎	○			
		地区設計論	■ 1	○	○	○						○	◎		○	
		地区計画論	■ 1	○	○	○						○	◎		○	
		都市計画論 I	1	○	○	○						○	◎		○	
		都市計画論 II	1	○	○	○						○	◎		○	
		ランドスケープデザイン	1	○	○	○						○	◎			
		建築史 I	■ 2	○	○	○						○	◎			
		建築史 II	■ 2	○	○	○						○	◎			
		建築史 III	■ 1	○	○	○						○	◎			
		建築史 IV	■ 1	○	○	○						○	◎			
		意匠論	1	○	○	○						○	◎			
		建築法規 A	■ 1	○	○	○						○	◎			
		建築法規 B	■ 1	○	○	○						○	◎			
		CAD/CG演習 I	2	○	○	◎							○	◎		
		CAD/CG演習 II A	1	○	○	◎							○	◎		
		CAD/CG演習 II B	1	○	○	◎							○	◎		
		CGプレゼンテーション演習 I	1	○	○	◎							○	◎		
		CGプレゼンテーション演習 II	1	○	○	◎							○	◎		
		建築環境工学・設備	建物内の温度、湿度、空気質制御に加え、明るさ、音環境を良好に維持・管理するために、それらを解析し、評価する能力を身につけており、建物の環境調整手法を活用した設計をすることができる。	建築環境工学 I 演習	■ 2	◎	◎	◎			○					
建築環境工学 II 演習	■ 2			◎	◎	◎			○							
建築環境工学 III 演習	■ 2			◎	◎	◎			○							
建築設備 I	■ 2			◎	◎	◎						○	◎			
建築設備 II A	■ 1			◎	◎	◎						○	◎			
建築設備 II B	■ 1			◎	◎	◎						○	◎			
構造力学・建築一般構造	建物の主要な構造形式の仕組みや力学的性質などに関する知識や解析能力を身につけており、構造物を安全に設計することができる。	構造力学アドバンス	2	◎	◎	◎						○	◎			
		不静定構造力学 I 演習	■ 2	○	◎	◎						○	◎			
		不静定構造力学 II	■ 1	○	◎	◎							○	◎		
		塑性力学	■ 1	○	◎	◎							○	◎		
		建築振動論 I	1	◎	◎	◎						○	◎			
		建築振動論 II	1	◎	◎	◎						○	◎			
		鋼構造 I	■ 2	○	◎	◎						○	◎			
		鋼構造 II	■ 2	○	◎	◎						○	◎			
		鉄筋コンクリート構造 I	■ 2	○	◎	◎						○	◎			
		鉄筋コンクリート構造 II	■ 1	○	◎	◎						○	◎			
		鉄筋コンクリート構造 III	■ 1	○	◎	◎						○	◎			
		建築基礎構造 I	■ 1	○	◎	◎						○	◎			
		建築基礎構造 II	■ 1	○	◎	◎						○	◎			
構造計画	2	○	◎	◎						○	◎					
建築材料・生産	建築材料の力学的・物理的性質、仕上げ材の種類と性能、建物の施工方法および積算に関する知識を身につけており、それを建物の設計・施工に活かすことができる。	建築材料 I	■ 2	○	◎	◎						○	◎			
		建築材料 II	■ 2	○	◎	◎						○	◎			
		建築施工	■ 2	○	◎	◎						○	◎			
		建築経済 I	■ 1	○	◎	◎						○	◎			
		建築経済 II	■ 1	○	◎	◎						○	◎			
共通	低年次においては各分野における知識や技術を理解・修得するための素養を身につけ、高年次においては建築技術の社会との関わりや、建築に携わる者の責任や倫理について説明できる。	設計基礎演習 I	■ 2	○	○	○						○	◎			
		設計基礎演習 II	■ 2	○	○	○						○	◎			
		建築概論	2	◎	○	○							○	◎		
		建築構法	■ 2	◎	○	○							○	◎		
		木構造	■ 2	◎	◎	◎							○	◎	○	
		絵画演習	2											◎		
		測量学 I・同演習	1			○						○	◎			
		測量学 II・同演習	1			○						○	◎			
		建築倫理	1			◎				◎			○		○	◎
		建築学アドバンス I	1	◎	○	○						○	◎			
建築学アドバンス II	1	◎	○	○						○	◎					
卒業研究	特別講義	1	○	○	○						○	◎		○		
卒業研究	卒業研究	(4)										○		○		

(注) ●：必修科目、■：選択必修科目、単位数の前に※を付した授業科目は卒業に必要な単位数に含めない科目

(※) 本学では、卒業研究に単位は設定しておらず、卒業要件として、その合格を課している。ただし、卒業研究が

DP達成に果たす役割は大きく、DSシステム上のDP達成度算出の対象とするため、カリキュラム・マトリクス上では卒業研究を4単位と仮定している。

建築学科 [2018年度入学生対象]

ディプロマ・ポリシー

- (1) 実践力のある専門の技術者となるべく、在学中だけでなく生涯にわたって主体的に学習活動を積み重ねる関心と意欲を持続できる。〔主体的に生涯学習を継続する意欲と関心〕
 - (2) 人文社会科学や自然科学・情報技術など、技術者に求められる幅広い教養とスキルを身につけそれらを活用できる。〔技術者に求められる文・理・情報系の素養〕
 - (3) 専門分野の知識・技術を体系的に理解し、社会や時代の要請に応じてそれらを実践的に適用できる。〔専門分野の知識・技術(詳細は学科DP)〕
 - (4) 技術者および社会人としてふさわしいコミュニケーション能力を備え、他者の意見・意向を正確に把握するとともに、自らの意見・意向を的確に表現し、相互理解のもとで議論することができる。〔相互に理解し議論するコミュニケーション力〕
 - (5) 社会的な課題の解決に向けて、他者と積極的に協働して取り組むことができる。〔他者との協働による課題解決力〕
 - (6) 地球的な視野に立ち、持続的な社会の維持・発展に向けた技術者としての使命観や倫理観を備え、社会に能動的に貢献する行動ができる。〔社会に対し能動的に貢献する行動力〕
- ◆注：「(3)」を明細化したものが、各学科のDPとなる
- (A) 人文社会科学や自然科学などの幅広い教養と英会話を含めたコミュニケーション能力を身につけ、それを建築のプロフェッショナルとして活かすことができる。〔幅広い教養に基づいたコミュニケーション能力〕
 - (B) 建築学の各分野で修得した幅広い知識・技術をもとに、総合的な見地から、多様な建築を設計・施工・管理・維持する技術的能力を修得し、それを実務で活かすことができる。〔専門基礎知識・技術の実践・応用力〕
 - (C) 建築学の各分野で修得した専門的な知識・技術をもとに、自発的に建築の学習を継続し、建築のプロフェッショナルとして自らを高めることができる。〔自己啓発に努める生涯学習能力〕
 - (D) 自身のアイデアを文章や図面にまとめ、表現する能力を身につけ、他者に正確に伝えることができる。〔確かなデザイン力に基づいたプレゼンテーション能力〕
 - (E) 社会が抱える諸課題の中から建築に関わる事項を抽出し、他者と協力して社会の持続可能な発展に寄与する合理的な解決策を見いだすことができる。〔協働的かつ主体的な課題発見・解決力〕
 - (F) 建築のプロフェッショナルとして使命感や倫理観を身につけ、社会的責任について考え、説明することができる。〔技術者としての実践的倫理観〕

◀DPを達成するために特に重要度の高い科目には◎、重要度の高い科目には○、DPの達成を効果的に補助する科目には△▶

分野	分野目標	授業科目名	単位数	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5	DP 6	DP A	DP B	DP C	DP D	DP E	DP F	
キャリア 形成の基礎	グローバル化の時代に対応できる社会人の基礎的素養・能力として、広い視野の人文的教養にもとづく思考・判断力と、言語の基礎的知識を活用した円滑なコミュニケーション力が発揮できるとともに、心身の健康を維持増進する方策を備えている。	世界と人間	2	○	◎		△	△	△							
		文章表現基礎	2	○	○		◎									
		哲学	2	○	◎		△	△	△							
		倫理学	2	○	◎		△	△	△							
		美術史	2	○	◎		△	△	△							
		文学	2	○	◎		△	△	△							
		日本語の歴史	2	○	◎		△	△	△							
		法学(日本国憲法)	2	○	◎		△	△	△							
		経済学	2	○	◎		△	△	△							
		歴史学	2	○	◎		△	△	△							
		心理学	2	○	◎		△	△	△							
		日本の伝統と文化	2	○	◎		△	△	△							
		国際関係論	2	○	◎		△	△	△							
		日本の文化と社会Ⅰ	2	○	◎		△	△	△							
		日本の文化と社会Ⅱ	2	○	◎		△	△	△							
		ベーシック・イングリッシュ a	1	△	○		◎		○							
		ベーシック・イングリッシュ b	1	△	○		◎		○							
		オーラル・コミュニケーションⅠ a	1	△	○		◎		○							
		オーラル・コミュニケーションⅠ b	1	△	○		◎		○							
		オーラル・コミュニケーションⅡ a	1	△	○		◎		○							
		オーラル・コミュニケーションⅡ b	1	△	○		◎		○							
		工学コミュニケーション英語基礎 a	1	△	○		◎		○							
		工学コミュニケーション英語基礎 b	1	△	○		◎		○							
		キャリア・イングリッシュⅠ a	1	△	○		◎		○							
		キャリア・イングリッシュⅠ b	1	△	○		◎		○							
		キャリア・イングリッシュⅡ a	1	△	○		◎		○							
		キャリア・イングリッシュⅡ b	1	△	○		◎		○							
		英語プレゼンテーション a	1	△	○		◎		○							
		英語プレゼンテーション b	1	△	○		◎		○							
		中国語コミュニケーション	1	△	○		◎		○							
		中国語と現代中国事情	1	△	○		◎		○							
		海外語学研修	2	△	○		◎		○							
		日本語Ⅰ	2	△	○		◎		○							
		日本語Ⅱ	2	△	○		◎		○							
		健康体育Ⅰ	1	△	○		◎		○	△						
健康体育Ⅱ	1	△	○		◎		○	△								
生涯スポーツⅠ	1	△	○		◎		○	△								
生涯スポーツⅡ	1	△	○		◎		○	△								

分野	分野目標	授業科目名	単位数	DP 1)	DP 2)	DP 3)	DP 4)	DP 5)	DP 6)	DP A)	DP B)	DP C)	DP D)	DP E)	DP F)	
基幹	各分野で得た知識や技術を統合して、総合的見地から建物を設計・建設する方法を身につけており、自らのアイデアを表現できる。	静定構造力学演習	● 2	○	◎	◎					○	○				
		材料力学演習	● 2	○	◎	◎					○	○				
		設計演習 I	● 3	○	○	○						○	◎			△
建築設計・計画	機能的で美しい建物や安全で快適な都市を計画・設計するために必要とする知識を身につけており、それに基づいて自らの考えを説明できる。	設計演習 II	● 3	○		○					○	◎			△	
		設計演習 III	● 3	○		○					○	◎			△	
		建築演習 I	● 2	○	◎	◎						○	◎		◎	△
		建築演習 II	● 2	○	◎	◎						○	◎		◎	△
		建築計画 I	■ 2	○	○	○					○	◎	○			
		建築計画 II	■ 2	○	○	○					○	◎	○			
		建築計画 III	■ 2	○	○	○					○	◎	○			
		建築計画 IV	■ 1	○	○	○					○	◎	○			
		建築計画 V	■ 1	○	○	○					○	◎	○			
		地区設計論	■ 1	○	○	○					○	◎	○		○	
		地区計画論	■ 1	○	○	○					○	◎	○		○	
		都市計画論 I	1	○	○	○					○	◎	○		○	
		都市計画論 II	1	○	○	○					○	◎	○		○	
		ランドスケープデザイン	1	○	○	○					○	◎	○			
		建築史 I	■ 2	○	○	○					○	◎	○			
		建築史 II	■ 2	○	○	○					○	◎	○			
		建築史 III	■ 1	○	○	○					○	◎	○			
		建築史 IV	■ 1	○	○	○					○	◎	○			
		意匠論	1	○	○	○					○	◎	○			
		建築法規 A	■ 1	○	○	○					○	◎	○			
建築法規 B	■ 1	○	○	○					○	◎	○					
CAD/CG演習 I	2	○	○	◎							○	◎				
CAD/CG演習 II A	1	○	○	◎							○	◎				
CAD/CG演習 II B	1	○	○	◎							○	◎				
CGプレゼンテーション演習 I	1	○	○	◎							○	◎				
CGプレゼンテーション演習 II	1	○	○	◎							○	◎				
建築環境工学・設備	建物内の温度、湿度、空気質制御に加え、明るさ、音環境を良好に維持・管理するために、それらを解析し、評価する能力を身につけており、建物の環境調整手法を活用した設計をすることができる。	建築環境工学 I 演習	■ 2	◎	◎	◎			○		○	○				
		建築環境工学 II 演習	■ 2	◎	◎	◎			○		○	○				
		建築環境工学 III 演習	■ 2	◎	◎	◎			○		○	○				
		建築設備 I	■ 2	◎	◎	◎			○		○	○				
構造力学・建築一般構造	建物の主要な構造形式の仕組みや力学的性質などに関する知識や解析能力を身につけており、構造物を安全に設計することができる。	建築設備 II A	■ 1	◎	◎	◎			○		○	○				
		建築設備 II B	■ 1	◎	◎	◎			○		○	○				
		構造力学アドバンス	2	◎	○	◎					○	○				
		不静定構造力学 I 演習	■ 2	○	◎	◎					○	○				
		不静定構造力学 II	■ 1	○	◎	◎					○	○				
		塑性力学	■ 1	○	◎	◎					○	○				
		建築振動論 I	1	◎	◎	◎					◎	○				
		建築振動論 II	1	◎	◎	◎					◎	○				
		鋼構造 I	■ 2	○	◎	◎					◎	○				
		鋼構造 II	■ 2	○	◎	◎					◎	○				
		鉄筋コンクリート構造 I	■ 2	○	◎	◎					◎	○				
		鉄筋コンクリート構造 II	■ 1	○	◎	◎					◎	○				
		鉄筋コンクリート構造 III	■ 1	○	◎	◎					◎	○				
建築基礎構造 I	■ 1	○	◎	◎					◎	○						
建築基礎構造 II	■ 1	○	◎	◎					◎	○						
構造計画	2	○	◎	◎					◎	○						
建築材料・生産	建築材料の力学的・物理的性質、仕上げ材の種類と性能、建物の施工方法および概算に関する知識を身につけており、それを建物の設計・施工に活かすことができる。	建築材料 I	■ 2	○	◎	◎				○	○					
		建築材料 II	■ 2	○	◎	◎				○	○					
		建築施工	■ 2	○	◎	◎					○	○				
		建築経済 I	■ 1	○	◎	◎					○	○				
共通	低年次においては各分野における知識や技術を理解・修得するための素養を身につけ、高年次においては建築技術の社会との関わりや、建築に携わる者の責任や倫理について説明できる。	建築経済 II	■ 1	○	◎	◎					○	○				
		設計基礎演習 I	■ 2	○								○	◎			
		設計基礎演習 II	■ 2	○								○	◎			
		建築概論	2	◎	○	◎						○	○			
		建築概論	2	◎	○	◎						○	○			
		木構造	■ 2	◎	◎	◎					○	○	○			
		絵画演習	2											◎		
		測量学 I・同演習	1								○	◎				
		測量学 II・同演習	1			○					○	◎				
		建築倫理	1			◎				◎		○			○	◎
卒業研究		建築学アドバンス I	1	◎	○	◎				○	◎					
		建築学アドバンス II	1	◎	○	◎				○	◎					
		特別講義	1	◎	○	◎					○	◎		○		
卒業研究		(4)			○					◎		○		○		

(注) ●：必修科目、■：選択必修科目、単位数の前に※を付した授業科目は卒業に必要な単位数に含めない科目
 (※) 本学では、卒業研究に単位は設定しておらず、卒業要件として、その合格を課している。ただし、卒業研究が DP達成に果たす役割は大きく、DSシステム上の DP達成度算出の対象とするため、カリキュラム・マトリクス上では卒業研究を4単位と仮定している。